



【特集】ジェンダー主流化 性別にとらわれず、誰もが自分らしく生きられる 社会の実現に向けて

▲男女が一緒に議論している写真（スリランカ）女性も意思決定の場への参画を！

▼ 目次【VOL.146】

- 2-3 【特集】ジェンダー主流化とは
- 4-6 FUNN活動レポート
- 7 FUNN加盟団体活動レポート
- 8 NGO相談員報告・イベント情報
- 9 インターン報告・お知らせ

みなさんは「ジェンダー主流化」という言葉を聞いたことがありますか。

「ジェンダー主流化」は、1995年に北京で開催された第4回世界女性会議¹以降、広く使われるようになった言葉です。今回は、ジェンダー主流化とは何か、なぜジェンダー主流化が必要なのかについて、考えてみたいと思います。

特集記事は次のページから >>>

そもそもジェンダーとは？

ジェンダーとは、生物学的な性別に対して、社会的・文化的に作られた性別のことをいいます。社会的・文化的に作られた性別とは、男らしさや女らしさといった社会的なイメージや、「男の人は外で働いて、女の人は家で家事や育児をするもの」といった男女の役割分担など、社会に根付いた価値観を基に区別された性別のことです²。このような「女性是这样あるべき、男性是这样あるべき」という性別に基づく考え方や期待（これを「ジェンダー規範」と言います）のために、社会にはさまざまなジェンダーに基づく差別や偏見、格差が存在します。

ジェンダー平等と女性・少女のエンパワーメント

このようなジェンダーに基づく差別や偏見、格差をなくすために「持続可能な開発目標(SDGs)」は5番目の目標として「ジェンダー平等と女性・少女のエンパワーメントの実現」を掲げています。「ジェンダー平等」とは、すべての人が性別にかかわらず平等な権利を享受し、自分の能力を十分に発揮できることをいいます。また、「女性・少女のエンパワーメント」とは、男性優位の社会・経済・政治の仕組みの中で不利な立場に置かれている女性や少女が自ら仕組みを変える主体として力をつけることを指します。そして、ジェンダー

平等と女性・少女のエンパワーメントを実現するための重要な戦略として位置付けられているのが「ジェンダー主流化」という考えです。

ジェンダー主流化とは？

ジェンダー主流化とは、社会的・文化的に作られた性別（ジェンダー）が男女間の差別や偏見、格差を生み出していることを理解し、あらゆる法律や政策、制度、事業にジェンダー平等という理念を反映させていくことを言います。

なぜ、ジェンダー主流化が必要なのでしょう。それは、ジェンダーに基づく差別や固定化された役割分担などにより、女性と男性では抱えている課題やニーズ、政策や事業から受ける影響が異なるためです。

一見ジェンダーとは関係なさそうなバスや鉄道を例にして考えてみましょう。途上国・先進国を問わず、男性と女性の公共交通機関の利用の仕方には違いがあります。男女の役割分担に基づき、男性は家と職場の往復に公共交通機関を利用するケースが多いのに対し、女性は子どもの学校への送迎や家族の病院への付き添い、買い物などのために家から比較的近い距離を何度も移動することが多いのです。

- 1 世界女性会議は、女性の人権や社会的地位の向上を目的として開かれる国連主催の国際会議。
- 2 「女性」「男性」という2つの性別だけでなく、多様なセクシャルティへの固定観念も含まれます。

しかし、多くの場合、公共交通機関は男性の移動の利便性を優先して運行されているため³、運行時間帯やルートなどで女性は不便を強いられています。また、女性は暴力やセクシャルハラスメントの被害に遭いやすいため、車内はもちろんのこと、バス停や駅が安全でなければ公共交通機関を利用できず、移動の自由が制限されてしまいます。ジェンダーに基づく課題やニーズ、影響に気づかないまま政策を策定したり、事業を実施したりすれば、ジェンダーによる差別や偏見、格差を助長したり、不平等を永続させたりしかねないのです。

そこで、男女の課題やニーズ、政策や事業から受ける影響を分析し、ジェンダー平等と女性のエンパワーメントを促進するような取り組みを実施する必要があります。先の公共交通機関に話を戻すと、女性が利用しやすい時間帯やルート、料金設定を検討するとともに、女性への暴力を予防するために照明を多めに設置したり、必要に応じて女性専用車の導入を検討したりします。また、これまで男性の仕事とされていた運転士や整備士などへ女性を登用することも女性の職業の選択肢を広げるうえで有効です。このような取り組みをした事業を見てみると、夜でも女性が移動できるようになったり、女性が運転士となって生き生きと仕事をし、それを見た女の子たちのロールモデルになったりという成果が表れています。

ジェンダー関係の変革へ！

近年、国際協力の現場では、ジェンダー主流化を更に一步進めるための方法として、「ジェンダー・トランスフォーマティブ（変革）・アプローチ」が注目されています。このアプローチでは、女性・少女が自分で意思決定し、人生を切り開いていくことを支援するだけでなく、ジェンダー規範やジェンダー間の不平等な力関係、差別的な意識や法律、制度の変革をも目指⁴します。コロナ禍で私たちは、元々の不平等が有事ではさらに拡大することを知りました。コロナ後へと進みつつある現在、コロナ前のジェンダー不平等な社会に戻るのではなく、私たちの社会を、性別にかかわらず誰もが生きやすい社会へと変革するチャンスにしましょう！



▲インドの女性専用車両（手前の車両）
女性専用車両で女性の安全な移動を支援

◆寄稿：蜂須賀真由美（開発コンサルタント）

- 3 例えば男性の利用が多い通勤時間帯に郊外から街の中心街へと向かうバスが多い一方、女性の利用が多い昼間の時間帯に近距離を横に移動するバスは本数が少ないということがあります。
- 4 「ジェンダー配慮」という言葉をお聞きになったことがあるかもしれませんが。「配慮」という言葉からは、困りごとを抱えた女性への心配りというニュアンスが感じられ、女性も自己実現できる主体であるということが伝わってこないように思います。時代は「配慮」から「変革」へと進んでいます。

2022年度NGOカレッジ報告

3月4日、5日、11日の三日間で第22回NGOカレッジ「わたしと世界の関わり方」を行いました。NGOカレッジは、世代を越えて様々な方々が国際協力について学びあう講座であり、今年度は自分にできる関わり方や行動について考えるような内容としました。講師には様々な分野で活動している4人の方をお招きし、これまでの自身の活動や、どのように国際協力と関わってきたのかについてお聞きしました。

第一回報告

3月4日は鬼丸昌也さん（認定NPO法人テラ・ルネッサンス創設者・理事）に『「平和をつくる」を仕事にする～地雷や子ども兵問題に取り組んで～』という題でお話していただきました。カンボジアの地雷の現状やウガンダの子ども兵の話を中心に、鬼丸さんが重要視している「伝えること」についてお聞きしました。自分がしていることは「自分だからこそできること」であり、1人でほんの少しでも行動を続けていたら活動は継続していけるとの考えが印象に残っています。

第二回報告

3月5日は神田浩史さん（NPO法人泉京・垂井副代表）と鈴木千花さん（JYPS事務局長）に「アドボカシーことはじめ」という題でお話していただきました。神田さんからは企業やNPOなどの様々なセクターにいた経験、そしてその中で政策決定の過程がクリアになるように

働きかけたことをお聞きしました。鈴木さんからは日本の若者の声を様々な組織に届けようとする中で、自身が感じたアドボカシーに必要なことをお聞きしました。

第三回報告

3月11日は林裕さん（福岡大学商学部貿易学科 准教授）に「国際協力の現場と私たちの関わり方」という題でお話していただきました。現場を経験してきた上で大学准教授をされている林さんより、国際協力に対する疑問や世界を見る大切さをお聞きしました。お話の中ではグループワークの時間もあり、お互いの考えも共有しながらお話を聞くことができ、有意義な時間を過ごすことができました。林先生の講演の後にはFUNNの加盟団体である5つの団体の活動紹介を聞き、現在どのような活動を行っているか、参加者の関わり方についてお聞きしました。

参加者よりコメント

参加者の方々からは「アフガニスタンの貧困問題について、日本などの先進国と比べて想像できないくらい、残酷なものだと知り衝撃だった。日本人はもっと国際協力について、学びを深めるために積極的に海外に赴くことが必要不可欠だと思った。」や「まずは相手のニーズに沿うために語学力を向上させることや、積極的にNGOボランティアへ参加することによって国際協力へ向けて自分ができる行動を考え、実行するべきだと思いました。また学生である以上、

【第22期NGOカレッジ】

わたしと世界の関わり方

どんな分野であれ有用であるとの意識を持ち、危機感を持って勉学に取り組み、知識を養うことで、学びの機会を逃さないように努めようとも思いました。」といったご感想をいただくことができました。

今回のNGOカレッジ第三回に参加したFUNNの代表理事である二ノ坂からは「若者の時にこのような話を聞くことができれば人生変わっていただろうと思う。また、このような話が若者に伝わっていくような時代になったのだと感じる。様々な人と話す中で国際協力の話をする、日本は先進国で他の国に支援をする側であると考えることが多いが、今日の話や現地に実際行くとそうでないこと

を実感する。日本ではある程度の基盤の上で人々は頑張っているが、自身が活動しているバングラデシュではマイナスの地点から0にしようと努力している。そのマイナスから0にすることがいかに大変かということや、その国際協力の現状をより多くの人に伝えたいと思った。」とのコメントをいただきました。



▲NGOカレッジの様子（第一回）

開催報告

FUNN勉強会「変わる開発協力大綱～その行方は？」

開発協力大綱（ODA大綱）の改定準備が進んでいる中で、開発協力大綱はどのように改定されるのかについて学ぶための勉強会を2月9日(木)18時半からココロンセンター一研修室にて開催いたしました。講師には今井高樹さん（日本国際ボランティアセンター(JVC)代表／NGO・外務省協議会・大綱改定NGO委員アドバイザー）をお招きし、開発協力大綱はどの点が改定され、どのようなプロセスで改定が進められているのか等を詳しくお話いただきました。

参加者は福岡の参加者のみならず、各地でNGOや政策提言に関わる方々にオンラインでご参加いただき、関心の高さを感じました。FUNNでは今後も開発協力大綱改定に関して市民の皆さんと共に考えていきます。



▲勉強会の様子

まちづくり・つながりづくりの 多文化共生セミナーを開催しました！

2月17日（金）と18日（土）に大分県宇佐市にて、「まちづくり・つながりづくりの多文化共生セミナー」をJICA九州主催、NGO福岡ネットワーク企画・運営にて開催し、地域に住む外国人をどのように受け入れ、支援を行うかを考えました。

セミナーでは基調講演の講師として、多文化共生の専門家である高柳香代氏をお招きし、九州内の在留外国人の現状と彼らと共生するためにどのような動きがあるのか、これからどのような意識で多文化共生を実現していくべきかを話いただきました。

また多文化共生に取り組む行政や団体の活動のヒントとするために、所属の異なる三名の講師から事例紹介をしていただきました。古賀市職員の方からは、日本人と技能実習生へのヒアリングからわかった古賀市の現状、福岡出入国管理局の方からは近年始まった在留支援の内容について、そしてNPO法人トゥマンハティふくおかの弥栄さんからは具体的にインドネシア人留学生とどのような活動を行い、そこから学べたことを紹介いただきました。

それまでの話をもとに、参加者でグループを作ってどのような活動を現在行って、どのよう

な問題があるのか、それを解決するには何が必要なのかを話し合いました。皆さん熱い思いを持っておられて、どのグループも自然と話し合いが盛り上がっていました。

参加者の方々には、アンケートより、内容に満足していただいたという回答を多く得られ、「様々な視点から多文化共生を学べた」や「(セミナーの)回数を増やしてほしい」などのありがたいお言葉もいただくことができました。参加者の皆様、ご協力いただいた関係者の皆様、そして講演していただいた各講師の皆様本当にありがとうございました！



▲（上）講師の高柳香代氏
（下）グループワークの様子

リモート倶楽部FUNN2023年2月 開催報告

『日本の森林資源でエチオピアの森林の再生に寄与できるか?』 & 「木材による文化交流!」』

2月10日(金)にリモート倶楽部FUNNを開催いたしました。今回は青年海外協力隊やNGO、JICA専門家、研究者等として長くエチオピアに関わっておられる、久田信一郎さんを講師としてお招きし、久田さんが現在取り組まれている森林資源を通じた大分とエチオピアの結んだ事業や文化交流活動について、また久田さんがどのようにしてエチオピア及び現在の文化交流活動に取り組むようになっていったか、その経緯に

についてお話いただきました。様々な立場で長く活動に関わられている久田さんからたくさんの興味深いお話をしていただき、有意義な時間となりました。



▲倶楽部FUNN2月集合写真
(左上が講師の久田さん)

参加報告

アイサップ市民講座「ラオス」という国

1月31日(火)に開催されたISAPHの市民講座『「ラオス」という国～どんな国?何が課題?人々の暮らしと健康～』にNGO福岡ネットワークから事務局の多原が参加いたしましたので、報告いたします。

当日は、研修で来日しているラオスからのカウンターパートのソムチットさん(カムアン県保健局 副局長)・プーソーンさん(サイブートン郡保健局 局長)と、ISAPHラオス事務所の石塚さんにお話いただき、ラオスがどのような国であるか、どのような母子保健に関する問題を抱えているか、その

問題についてアイサップがどのような活動をしているのかお伝えいただきました。普段なかなか知ることのできないラオスの現状について知ることができ、実際の活動について現地の方からお話を聞ける貴重な機会となりました。



▲ラオスのカウンターパートのお二人



【NGO相談】レポート

令和4年度NGO福岡ネットワークは、外務省NGO相談員を受託しております。数多く寄せられる相談のなかからピックアップしまして、レポートいたします。



FUKU-NETパネル展に出展しました！

1/31～2/5の期間、福岡市役所で開催された福岡市内の国際活動に関わる団体の活動紹介パネル展にFUNNも出展しました。期間中はスタッフもブースに滞在して、展示パネルの説明や国際協力に関する相談に対応しました。

ブースには幅広い年代の方が立ち寄り「NGOやSDGsは聞いたことがあるが、知らなかったが理解できてよかった」や「世界中で発生している貧困や環境問題について教えてほしい」という問い合わせがありました。

JICA海外協力隊まつり参加しました！

3/18と19日の2日間に渡りJICA海外協力隊まつりにて、NGO相談ブースを出展しました。50名近くの市民の方に相談ブースを利用いただきました。市民の方からはNGO団体の活動についてや、環境や貧困等の原因を解説してほしいという相談、NGO団体のインターン・就職等の進路に関する問い合わせがありました。ODAに関する広報書類も配布でき、ODAについて詳しく理解することができたというお声を頂きました。

FUNN周辺 “おすすめ” イベント情報

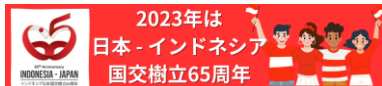
【トゥマンハティふくおか】

博多どんたく港まつりどんたくパレードに『インドネシア共和国どんたく隊』として参加します！

今年は日本・インドネシア国交樹立65周年！インドネシアの留学生・技能実習生・社会人、インドネシア好きな日本人、トゥマンハティふくおかのメンバーと一緒にパレードしませんか！どなたでも参加OK！インドネシアをご存じない方は、この機会にインドネシアの魅力を知ってください！※参加費無料

- ◆出発予定日時：5月4日 15時33分※雨天決行（14時30分に冷泉公園集合）
- ◆ルート：明治通り（呉服町～アクロス福岡）
約1.3km 徒歩約40分

※お申込み
はこちら→



【FNA(エフナ・アジア開発銀行福岡NGOフォーラム)】

ウォルデン・ベロー講演会
激動する世界と東アジアの将来2023—民衆のオルタナティブの視点から— ～英語・日本語逐次通訳～

- ◆日時：5月13日（土）午後2時～5時
- ◆会場：九州大学 西新プラザ 2階大会議室A（福岡市早良区西新2-16-23）
- ◆参加費：500円（学生無料）
- ◆定員：80名（先着順、申込多数の場合は参加をお断りする場合があります）
- ◆主催：FNA（エフナ）

- ◆申込：要事前申込・下記へご連絡ください（申込締切5月12日）

※連絡先：FNA（エフナ）

Email: fnango@fna-ngo1996.sakura.ne.jp
お名前・Emailアドレス明記の上、ベロー講演会参加希望と記載してください

FUNNインターン報告

今年の2月から二ヶ月、FUNNに二人のインターンが来てくれました！今回は二人にFUNNでインターンをしての報告を書いてもらいました。



今回インターンシップに参加させていただき、国際問題の講演を聞いたり、イベント運営の手伝いをさせてもらったり、二ヶ月という短い期間の中で、大学生活でなかなか経験できない多くのことを学ぶことができました。中でも、イベントの運営を行う中で、地域の方々と積極的にコミュニケーションをとり、国際問題や外国人との関わり方についての考えを深められたことが印象に残っています。また、自分自身も学生の間に海外へ行き、ボランティア活動などを組み組みしてみたいと思いました。ここで得たことを今後活かしていき、もっと国際問題に関心を持てるように、自主的に学んでいきたいと思っています。二ヶ月間ありがとうございました。

二か月間インターンシップに参加させていただきました島津です。この二か月間のインターンシップを通して、国際協力という言葉がより身近に感じるようになりました。というのも、国際協力に関する講演を聞いたり、支援活動を行っている加盟団体へインタビューをしたりするといった経験が得られたからです。また、インターンシップの活動の中で、自分の知識不足を感じる場面が多々ありました。しかし前述の経験により、そのことを負い目に捉えるのではなく、知らないからこそ素朴な意見を考えようと、今できることをしようと思えました。こうして得た新しい知識や考え方を活用し、今後の課題に前向きに取り組んでいこうと思います。二か月間本当にお世話になりました。ありがとうございました。



FUNN加盟団体 寄付金募集情報



【JVC九州ネットワーク】

トルコ・シリア大地震 緊急支援

2月6日トルコ・シリアを襲った大地震による死者数は5万人を超え、東日本大震災の発生以降で、もっとも犠牲者数が多い自然災害といわれています。JVCは シリア 北西部での緊急支援の実施を決定し、ご寄付の受付を開始いたしました。ご支援のほどよろしくお願いいたします。
<https://www.ngo-jvc.net/news/news/202302ts.html>



【地球市民の会】

ウクライナ避難民が日本で安全に暮らすことを支援する「地球市民ファンド」

【募集概要】

- ◆募集期間：2022年3月～期限未定
- ◆目標：1000万円
- ◆寄付の方法：1回だけの寄付、継続支援プラン（毎月定額を寄付）
- ◆寄付金の使途：ウクライナから日本へ避難するまでの旅費
- ◆特典：全員にメールでの活動レポートをお送りします。また交流イベントなどへご招待します。



【FUNN応援募金のお願い】



NGO福岡ネットワーク（FUNN）では、九州地域に拠点を持つNGOとネットワークを作り、会員団体には組織基盤・活動実施能力向上のための研修・学習会、市民の方には各ネットワーク加盟団体の活動をお知らせする他、国際理解の普及、国際問題をともに考える講座や相談業務を行っております。

昨今の社会情勢により、NGO団体として活動がより厳しい状況となりつつあります。FUNNでは「FUNN応援募金」を開設して、皆さまからの寄付を受け付けております。今後も継続的な活動を行うには皆さまからの暖かいご寄付が必要です。ぜひ私共の活動にご賛同頂ける方は「FUNN応援募金」へご協力をお願いいたします。皆さまからの暖かい寄付を職員一同心よりお待ちしております。

☆☆寄付の振込先☆☆

【西日本シティ銀行】

加入者名/名義人：NGO福岡ネットワーク
 カナ名：トクヒ エヌジーオーフクオカネットワーク
 支店番号：208（赤坂門支店）
 口座番号：普通 1641291
 ※メモ欄に「FUNN応援募金」とご記入ください。

【郵便振替】

加入者名：NGO福岡ネットワーク
 口座番号：01790-7-89478
 ※通信欄に「FUNN応援募金」とご記入ください。
 ※会費振込もこちらの口座まで

FUNN会員募集中！ ・正会員（団体）¥10,000 ・通信会員（個人）¥3,000
 ・賛助会員（個人）¥6,000 ※金額は年会費です。

会員に関する詳細はこちら→



編集後記

今月号より国際協力ニュースの編集を担当することになりました、多原真美と申します。数年前もFUNN事務局を務めておりましたが、縁があり、1月より再び復帰をいたしました。これからどうぞよろしくお願いいたします！



FUNN正会員団体リスト

- * (特活) ISAPH
- * アジア開発銀行福岡NGOフォーラム
- * (特活) アジア女性センター
- * (特活) 九州海外協力協会
- * 債務と貧困を考えるジュビリー九州
- * 佐賀NGOネットワーク
- * JVC九州ネットワーク
- * (特活) じゃっど
- * 認定NPO法人地球市民の会
- * チベットを知る会
- * NPO法人トウマンハティふくおか
- * ネパール歯科医療協会(ADCN)
- * 芭蕉繊維研究会
- * (特活) バングラデシュと手をつなぐ会
- * PP21ふくおか自由学校
- * 福岡YMCA
- * フレンズ国際ワークキャンプ九州
- * (一社) ミドリゼーションプロジェクト
- * モザンビークのいのちをつなぐ会

【編集・発行】

FUNN 特定非営利活動法人
 NGO福岡ネットワーク

〒812-0011
 福岡市博多区博多駅前3-6-1
 小森ビル4A 福岡NPO共同事務所「びおとーぷ」内

FUNN公式ホームページ
 最新情報はコチラから



* 受付時間：火～土 13:00～18:00
 * 日・月・祝・・・休み



: 092-405-9870



: funn@ngofukuoka.net



: https://ngofukuoka.net/